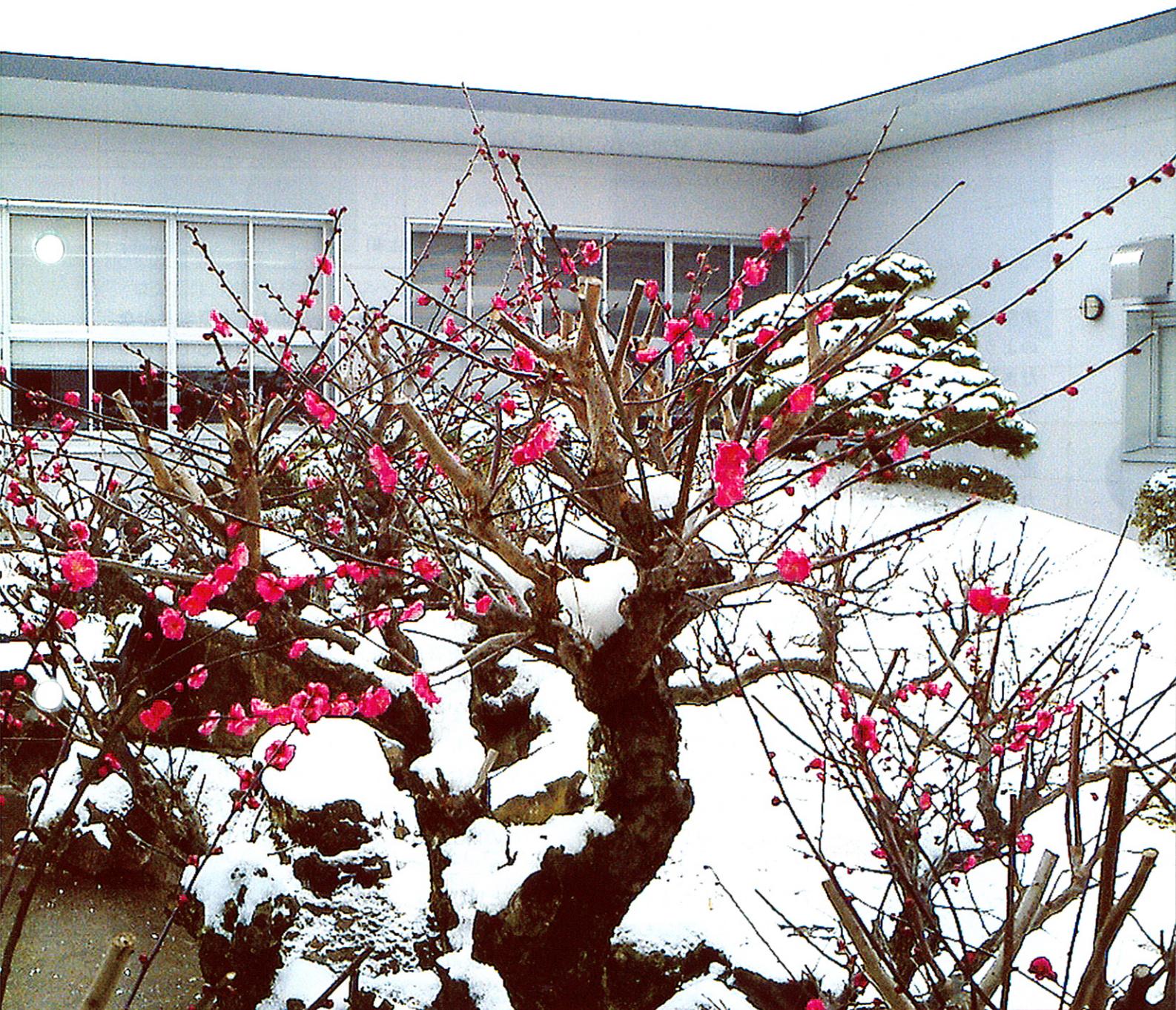




有明高専だより

第115号
2005.3



特集 JABEE受審を終えて	2
シリーズ 卒業をひかえて	4
シリーズ 人物 いま	6
各種技能検定合格者	7
各種表彰 (建築設計競技 他)	8
第36回定期演奏会	9
シリーズ 研究室訪問	10

目次

シリーズ 輝く!先輩 職場を訪ねて	11
冬季球技大会/小岱山清掃登山	12
新学生会/クラブリーダー研修	13
岱明寮だより	14
寮生送別会/留学生送別会	15
トピックス	16
編集後記	16

*本文中において、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科)

特集 JABEE受審を終えて

本校は、昨年11月10・11日にJABEEの審査を受けましたが、そのとき審査の対応を中心的にされたのがJABEE実行委員会です。今回はそのJABEE実行委員に集まつていただき、有明高専の教育プログラムについて話をしていただきました。JABEE認定の目的は、技術者教育の質の向上と国際的同等性の確保にあります。つまり、「技術者教育プログラムで技術者教育の質の保証が確実になされているか」ということと「保障されている水準が定められた認定水準以上かどうか」が審査されたのです。JABEEに認定されますと、本校の教育プログラムの設定した最低水準が、社会の要請および国際的同等性から見て妥当であると言えます。さらに、専攻科を修了した学生は修習技術者として認められ、法定の登録を受けることによって技術士補となり、技術士のもとで4年間業務に従事することで、技術士第二次試験を受けることができます。アメリカやイギリスなど8カ国で工学教育プログラム認証の国際相互承認協定を締結しておりますが、2005年に日本も仲間入りをする予定です。加盟が認められますと日本の技術士がアメリカのプロフェッショナルエンジニアと同等に仕事ができるようになります。

出席者：新谷先生（専攻科長）、吉田先生（M科）、塚本（俊）先生（E科）、
松野（哲）先生（I科）、富永先生（C科）、山下（俊）先生（A科）、
坂西先生（G科）、池田学生課長

聞き手：氷室先生（教務主事）



氷室：本日は、JABEE受審により本校の教育がどのように変わったのかを中心に、話し合っていただきたいと思います。最初にJABEE受審による効果についてお話しください。

山下：まず、教職員と学生が一体となりJABEE受審という一つの目標に向かって統一した意識で協力して動いていただいたという事実が重要なことだと思います。JABEE実行委員会から学生・教職員の方々にいろいろとお願いしましたが、皆さんに快く協力していただいたおかげで審査を無事受けたことができたと思っています。この場を借りてお礼を言わせていただきます。本当にありがとうございました。



松野先生（I科）

坂西：私もそこが大切だと思います。目的が何であれ、専攻科も含め学校全体が同じ方向を向いて行動したことに意義があると思います。
富永：学生もさまざまな変革によく対応してくれ、よい評価を得たのではないかでしょうか。

山下：学生に対する面談でも、審査員の学生に対する評価が高かったように思います。

塚本：特に、専攻科の学生がカリキュラム変更で苦労したにもかかわらず、やる気を持って取り組んでくれたので、受審後においても専攻科の雰囲気が非常に高まったと感じています。

新谷：わたしたちの意識も、教育自体に向いてい



新谷先生（専攻科長）

たのが、実際にどんな学生が卒業しているのかを問われ、ほんとうは何が大事なのか考えようになりました。また、卒業生や企業へのアンケートなどにより、外部からの評価がどのようなものか分かったのもよかったです。

塚本：自分自身のことではありますが、試験問題の保存用解答作成など、受審前までは必ずしも適切に対応していなかったことを、きちんとやるようになりました。

山下：私も、外部からの視点で本校の教育システムを厳密に見直していただき、教育の改善にとって大変効果的であったと思います。また、FD（教育の質の向上）の活性化やシラバスの改編等、改善すべきところを改善できたと思います。

松野：「有明高専が輩出すべき技術者は、どうあるべきか？」ということをみんなで改めて考え直す良いきっかけになったのではないかと思います。

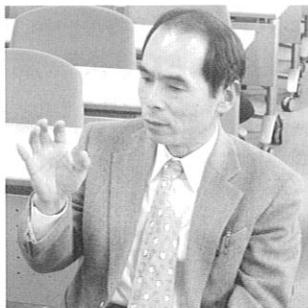


松野（哲）先生（I科）

氷室：それでは次に、JABEE受審で明らかになつた改善すべき点についてお話ををお願いします。

塚本: 今回は工学関連分野で受審したわけですが、プログラム1本化の過程で、学生・教員にいろんな形で苦労をかけたと思います。これ以上の複合度は現実的にかなり厳しいにもかかわらず、審査員の目には十分な複合度として映らないのも事実です。次回の受審では、3専攻にそった3プログラムで受審することにも一考の余地があると思います。

松野: 私も、本校のプログラムは眞の意味での複合・融合教育カリキュラムにまでは到達していないよう思えます。今後は、専攻科ごとの研究室配属や縦割りカリキュラムなどの現状を改善していく必要があると思います。



山下(俊)先生(A科)

山下: 教員間連携ネットワークについては、本校でも機能していたと思いますが、その議事録などの証拠が残っていないなかつたため審査時に不安がありました。

今後はきちんと議事録

などを残すことを習慣づけなければと思います。

新谷: 地域連携の面で少し弱かったのではないかでしょうか。もう少ししっかりした組織で連携を強化する必要があると思います。そうすれば、インターンシップもさらに充実するものと思われます。

水室: 最後に、JABEE受審に関連して有明高専がこれからやるべきことについてお話ししていただけたらと思います。

塚本: TOEIC400点は最低ラインであり、専攻科学生はこれを目標にするのではなく500点以上を目指し、また本科卒業生にも英語コミュニケーションの力は不可欠なので、5年の卒業までに400点を目標に受験して欲しいと思います。

池田: JABEEは大学教育を基準としているため、高専のシステムに適応させるにはかなり



池田 学生課長

苦労があったと思います。将来は高専基準のJABEE制度ができればと期待しています。

吉田: ともすると、JABEEに認定されることが第一義的な目



吉田 先生(M科)

標となり、5年卒業生に対する教育プログラムのほうに目が向かなくなる恐れがあると思います。高専は本科卒業生が多数を占めるのですから、まず、その対応をきちんとする意識をもつことが重要だと思います。

坂西: 私も同感です。JABEE受審のために本校が育んできた良い教育システムまで変更しないように心がけていくことが大切だと思います。JABEE認定校を卒業したではなく、有明高専を卒業したと学生が胸を張っていえるような学校にしたいです。

畠永: 高専卒業生に社会的な評価がきちんと付与されるような教育システムが必要ではないでしょうか。例えば、技術士などの資格が必ず取得できるとか、その他の有用な資格が取れる学校というのも考えてよいのではないでしょうか。

松野: 現在の技術士が社会的にどのような位置付けになるのか、なるべきなのかを考えていく必要があると思います。



塚本(俊)先生(G科)



坂西 先生(G科)

塚本: 本校は、平成17年度に大学評価・学位授与機構が行う「認証評価」を受審することが決定しております。JABEEと同じように、夏ごろまでに自己評価書の提出、秋頃に訪問調査があります。再び、

学生・教職員の皆さんにご協力ををお願いすることとなります。有明高専のすばらしい現状をきちんと評価していただくために、皆様のご協力をお願いします。

水室: JABEE認定を受けることが、高専自体の自発性によるよりも外圧によって推進されている限り、本格的で持続的な創意工夫などがあまり期待できないと思います。何のためのJABEE認定かという意義や意味を理解した上で主体的な取り組みが望されます。また、高専教員の全員が「世界に通用するわが国を代表する技術者教育機関を目指す」ことを決意し、そのためにあらゆる教育改革を行う明確な意思を示すことだと思います。JABEEを踏み台としてさらに発展するたくましさをもつことが大事であると思います。

本日はどうもありがとうございました。

シリーズ 卒業をひかえて

平成17年2月17日(木)

卒業を目前に、高専生活での思い出や、これからのことについて語っていただきました。

出席者：西丸 優樹さん(5M) 松本 有希さん(5C)
 莺屋 浩司さん(5E) 吉田 沙織さん(5A)
 伊藤 周作さん(5I)



司会：松岡 高弘先生(A科)

司会 高専での最後の試験が終わり、皆さんホッとしていると同時に疲れていることだと思います。また、卒業研究の締め切り等で忙しい中、各クラスを代表して皆さんに集まつていただきました。卒業を間近にひかえたこの時期、5年間の高専生活を振りかえって、いろいろとお話をうかがいたいと思います。

まず、高専生活で印象に残っていることや思い出をお話ください。

西丸 体育祭でのパネル・人文字の練習がきつかったことです。声を出し、手を動かして、タイミングを合わせることが大変でした。人文字が上手くいったかどうかはやっている本人には見えませんが、声はよく出ていたと思います。(応援賞を獲得しました)

莺屋 寮生活が一番思い出に残っています。1年生のときがきつかったけど、球技大会など日常生活を含めて全て楽しく過ごすことができました。食事は美味しいときもありましたが…。学校の生活では今年の球技大会で優勝できることです。

伊藤 5年生での球技大会が楽しい思い出となりました。20歳になる人が昼休みにコートを急いでとりに行くといった行動は大学生などではなく、そういう雰囲気が好きでした。5年間ずっと一緒にクラスメートとサッカーをするのが楽しく、クラスマッチを通じてクラスの絆がより一層強くなつたと思います。

松本 混合学級が楽しかったです。知り合いが増えたことがよく、他の学科の人と仲良くなれてよかったです。5年生のときの高専祭は最上級生として下級生の上に立つてがんばりました。

吉田 高専祭が楽しく、特に5年生での高専祭ではクラスで撮った映画のヒロインになれてよかったです。体育祭では建築学科として一つにまとまることができて良かったと思いました。

司会 高専生活での思いでの中にクラブ活動のことがなかつたのですが、何か思い出はありませんか。

西丸 水泳部に入つてきましたが、高専大会での成績が芳しくなかったので思い出はありません。

莺屋 野球部は楽しかったんですが、最後の高専大

会の前の週に行われた練習試合で肉離れを起こして試合に出場できず、残念でした。

伊藤 4年でテニス部をやめましたが、それはおもしろくなかったからです。先輩から誘われてテニス部に途中から入りましたが、だんだんと嫌いになりました。

松本 私はクラブには入つていません。

吉田 4年生から華道部に入り、感覚的なことなど、ためになりました。また、他学科の人と知り合えてよかったです。

司会 皆さん新カリキュラムの最初の卒業生になり、混合学級を経験しています。クラスの中には混合学級で卒業旅行に行くと聞いています。混合学級はどうでしたか。

西丸 2年生となってクラスメートが変わって刺激となって、途中、だれることがなかったこと、友達が増えたことが良かったと思います。

莺屋 楽しかったです、常に。混合学級でも同じクラスになった電気科の友達とは5年間一緒だったので、特に仲良くなっています。

伊藤 友達が増えたことが良かったと思います。3年生になって再度同じクラスになったときに、1年のときと比べて雰囲気が変わったと感じました。華やかになったような気がしました。

松本 1年生の終わりの頃、混合学級は嫌だなあ、と思っていましたが、でも知り合いが増えて、混合学級は良かったと思っています。

吉田 友達が増えて良かったことはありますか、2年生の専門の授業で建築学科の同級生と集つたときに建築はいいなあ、と感じていました。

司会 新カリキュラムでは他の学科のことも学ぼうという主旨のもと、工学基礎Ⅰや工学基礎Ⅲが行われていますが、それらを受けての感想はありますか。

西丸 他の学科の勉強にちょっとは触れられた程度あまり覚えていません。

莺屋 建築学科担当の案山子では、計画はほめられましたが、計画が間に合わず、風で動かなく、駄目でした。

伊藤 案山子は満足できるものができました。案山子以外には物質工学科の化学実験が楽しかったことを覚えてます。



莺屋 浩司さん(5E)

えています。また、興味ないものもありました。

松本 ▶ 一番楽しかったのは案山子ですが、物質工学科の豆腐つくりも楽しかった。

吉田 ▶ 案山子は大変でした。作業がたくさんあって、同じ班の人と多くの話し合いをしたことを覚えています。

司会 ▶ 1ヶ月と少しで就職・進学等、新しい生活が始まりますが、皆さんに進む就職先・進学先を志望した理由を教えてください。

西丸 ▶ 専攻科に進学しますが、機械工学科の学問を深く勉強したいと思いました。専攻科では今まで勉強したことで積み上げて勉強できるので、大学よりも専攻科を志望しました。

苅屋 ▶ ソニーセミコンダクタ九州に就職します。パソコン、デジカメ、プレステ等の中身をつくる会社です。早く就職したいと思っており、できれば大きな会社がよくてソニーを受けました。

伊藤 ▶ 熊本大学と佐賀大学に学力で合格しました。行きたい研究室の第一は佐賀大学でしたが、担当教授が定年退職なさるので、2番目に行きたい研究室がある熊本大学に進学します。



松本 ▶ 熊本大学に進学します。公務員なりたいとか、将来のことを考え悩んでいて、なかなか結論が出ずになりました。悩む期間を延ばしてもいいのではないかと先生からのアドバイスもあり、進学することにしました。

松本 有希さん(50) 今は、高校の先生にもなり

たいと思い、大学で教員免許をとろうと思っています。

吉田 ▶ 福岡市の斎藤正雄建築事務所に就職します。建築に関する全てのことに関わるのが設計事務所だと思い、志望しました。

司会 ▶ 内定や合格に至るまで多くの苦労をされたことだと思いますが、何かありますか。

西丸 ▶ 苦労はしていません。気付いたら良い結果が出ていました。

苅屋 ▶ 電子の勉強をしました。面接では会社の人の前でホワイトボードを使って説明をしなければならないので、その練習をしました。説明する課題は面接時に言われるので、何ができるのか解らないので、たくさん勉強しました。

伊藤 ▶ 学力での試験は夏休みの終わりの頃にあつたので、夏休み中、受験勉強をしました。それで、夏休みはありませんでした。

松本 ▶ 推薦だったので、大変なことはなかったのですが、推薦の条件に入るため4年生のときは勉強をがんばりました。

吉田 ▶ 設計事務所の求人は高専にこないので自分で探ししかないと思い探しました。5年生になる前の4年生の春休みに実習に行き、今年の1月にやっと内定

をいただきました。

司会 ▶ 将来の夢を教えてください。

西丸 ▶ 将来、自動車をつくりたいと考えており、そういう会社に就職できればうれしいと思っています。

苅屋 ▶ 夢でないかもしれません、人事部に行きたい。

採用のときに学生みてみたいので。その他、保育士や小学校の先生になりたいと中学校の頃から思っていました。

伊藤 ▶ 自分が関わった商品が多く人の役に立てればうれしいと思っています。

松本 ▶ 教員免許を目標にしています。普通高校の化学系の先生になって白衣を着て授業ができればいいな、と思っています。

吉田 ▶ 有名になりたい。設計した作品で有名になりたいし、テレビに出演したいと思っています。

最後に、後輩へのアドバイスや伝えたいことをお願いします。

西丸 ▶ 勉強に関してはちゃんとレポートなどを提出しておけば留年はないだろうということ。1・2年のときは4・5年生にいろいろ注意されて、いやなときもあったけど、それまで我慢してがんばってほしい。

苅屋 ▶ 4Eの後輩に言いたいことは、就職はできると思うけど、行きたい会社があるのなら、4年のときの勉強はまじめに取組んでおかないと、受からないことが多い。テストが多いかもしれないけど、遊びながらがんばってほしいと思います。

伊藤 ▶ 5年間ずっと一緒に過ごすということは高専でしか味わえないの、ここで得たことを大事にしてほしいと思います。

松本 ▶ 目標を早くもってほしいと思います。そうすればそれに向って努力するのも苦にならないと思います。いろいろなことに关心をもって、自分がなりたいもの、やりたいことを見つけてほしいです。

吉田 ▶ なんとかなる、と思います。私は設計事務所に就職したくて、ずっとあきらめなかつたので就職が決まったと思っているので、あきらめないことが大事だと思います。

司会 ▶ 本日は大変貴重な話をきかせていただき、ありがとうございました。有明高専の卒業生として皆さんのが今後の活躍を期待しております。



西丸 優樹さん(5M)



吉田 沙織さん(5A)

永年勤続20年の方々にインタビューをしました。



一般教育科
中島 洋典 先生

の全国大会で4種目の個人タイトルを全種目取れたことです。今後の目標は団体戦の全国制覇です。

◇20年前と今について

有明高専の変化と同じように社会や地域の変化を強く感じています。パソコンや携帯電話などの急速な発展によって利便性が増し、大牟田や荒尾の町も生活する者としてずいぶん便利になったと思います。それに比べてなかなか成長できないのが人間かなと考えてしまいます。個人的には、今後年をとってこの変化に付いて行けるかなという不安を感じています。

◇学生に一言

勉強やスポーツなど全てそうですが、勉強して初めて知識が身につくし創造性が發揮できます。苦しい練習が栄冠を勝ち取る一番の近道です。最近の学生諸君を見ていると楽をして結果を求める人が多いようです。もっと現実に厳しく立ち向かって下さい。「楽は苦の種、苦は楽の種。」

◇20年間での一番の思い出

思い出というより20年間を通して強く感じることは、有明高専の急速な変化です。電子情報工学科が設置された頃より、女子学生の急激な増加、校舎や学寮の改修や増設、カリキュラムや進級規定の見直し、専攻科の設置、高専全体の独法化、JABEEの受審など、最初の5年間と比較すると器や中身が変化しない年はないといふらに成長していると感じています。この変化の傾向は時代の変化に応じてこれから加速されるのではないかでしょうか。個人的には、顧問をしているバドミントン部で高専

◇20年間での一番の思い出

4校の高等学校に勤務してから高専にきました。それぞれの学校での生徒や学生との出会いが一番の思い出です。今でも街で以前勤めた学校の制服を見かけると、その頃の自分に一瞬もどるような気がします。

一般教育科
安部 規子 先生

◇20年前と今について

当時は、理系科目はもちろん、英語でも女性の高校教員は少なかったのですが、現在では格段に多くなっています。高い専門性を身につけた高専の女子学生の活躍が期待され、その職場が世界中に拡大していくように心から願っています。また、英語教育で言えば、コミュニケーション中心の英語教育を中学で受けてきたここ最近の学生は、英語でのコミュニケーションの意欲も高く、英語を話す能力も聞く能力も向上しています。それをさらに発展させるためには、語彙や文法の基礎知識が必要不可欠ですので、今後はコミュニケーション活動と知識のバランスをとった英語学習が重要になるのではないかと思います。



教育研究技術支援センター
堀田 孝之 技術職員

◇20年間での一番の思い出

平成13年度までコーチをさせていただいた剣道部の活動に特に印象深い思い出があります。九州地区高専大会における全国大会への出場権をかけた決勝戦での試合展開など今でもその瞬間が思い出されます。また、本校が全国高専大会の剣道種目の担当であったときにはその運営に関わり、非常に貴重な経験をさせていただきました。

◇20年間での一番の思い出

私の20年間は、鹿児島大学を皮切りに鹿屋体育大学、長崎大学そして本年度から有明高専と異動してきました。したがって、その場の場での様々な思い出がありどれが「一番」なのかランクが付けがたい。楽しい思い出はもちろんですが、失敗で周りの方々に迷惑をかけてしまった思い出も多々あります。(今となっては笑い話で済ませますが……) 何れにせよ、「20年間全てが思い出」と言っても過言ではないと思います。

会計課
若林 俊幸 施設係長

◇20年で自分が変わったところ

なんと言っても体重とウエストのサイズです。体重も10kg、ウエストも10cm近く増になりました。(「10」と言う数字的には良いのですが中身が……) 性格は良くなつたと思います。

◇これからの生き方は?

20年間経験してきたことを基に、仕事のあり方や行き方また人間関係等、1日1日を大事にしていきたいと思います。

◇学生に一言

この20年間でいろいろな技術の発展とその技術をものとして社会に出すためにたくさんの技術者が関わっています。そういう技術者を目指し、自分の目標に向かって充実した高専生活を送ってほしいと思います。

◇学生に一言

「みんなの役に立つ施設」「頼られる施設」をモットーに、各工事や維持管理等に努めて行きます。



庶務課
井上 俊幸人事係長

◇20年間での一番の思い出

昭和59年に国立諫早少年自然の家に採用され、平成2年に九州大学へ転勤し、早いもので20年が過ぎてしまいました。この20年を振り返っての思い出は、やはり少年自然の家のいろいろな経験です。皆さんもご承知かと思いますが、少年自然の家では子ども達が宿泊体験と自然活動体験を通して生きていく力を見出しています。(私はこれを「体験カルシウム」と勝手に呼んでいます)。今、子ども達を取り巻く環境や子ども達自身のあり方に様々な見方があります。しかし、子ども達は、今も昔も変わらないのです。(多分、変わったのは大人の社会とその中の大人ではないでしょうか?) 20年間での一番の思いでは、そんな少年自然の家で、大自然を相手に目を輝かせて遊ぶ子ども達と過ごした時間(とき)が一番の思い出です。

◇20年前と今について

私が就職した昭和59年は、コピー、ワープロ等が職場に入りつつあった時代でした。仕事では、まだ青焼きのコピー?をやってましたね。私はあのとき、今現在の電腦社会の現状を想像することすらできませんでした。技術の進歩の早さには、本当に驚かされるばかりですね。もっと、興味と先見性を持って取り組んでおくべきだった反省しています。

◇わたしの生き方

人の本質は、性善説の中にいると私は信じています。そんな「善」を前提にした私の生き方の基本は、「優」です。優秀の優、優しさの優、「人」の横に「優(うれい)」がある優、そう、人は人の哀しみ、痛みがわかる人でなければ、優秀な人にはなれないし、本当に人に自分に優しい心で接することもできないし、強い人にもなれません。人は誰でもパーフェクトではありません。未熟な私は、自分の「優」を今でも探し続けていますし、これからも探し続けることになりますが、今自分の内で最善の「優」を実行して行きたいと思っています。

◇学生に一言

よく言われる言葉ですが、「よく遊びよく学ぶ」。何事もバランスの問題だと思います。私から皆さんにお願いしたいことがあります。これから社会において、その技術の最先端を担つていられる訳ですから、ぜひ、真に人に優しく、そして真に人に必要な技術の発展を目指して頑張ってください。



学生課
藤丸 今日子主任

◇継続は力なり

「継続は力なり」…「何かを続けていれば、結果として力がつくもの」と思っていましたが、「何かを続けること、それ自体に、力が必要」と、最近気付きました。だんだん、体力・気力ともに下降線をたどりますが、行動のみならず、思いも含めて、これから自分に…「継続は力なり」



学生課
松本 千賀子主任

◇20年間での思い出

鹿児島大学で採用され、その後熊大、電波高専、有明高専と現在に至っています。初任ということで、鹿児島での生活は特に印象に残っています。老夫婦の家の離れを間借りしたときは、いろいろお話をしてくれる言葉がほとんど分からず、同じ九州内でありながら驚き、また、桜島の火山灰が大量に降ったときは、クーラーもない部屋で窓を開けることもできず暑い夏を過ごしました。その後、地元である熊本大学へ転勤となり、いくつかの部局を経験しました。高専での初仕事は寮係で、中学を出たばかりの初々しい新入寮生が親元を離れ心細げでかわいく思いましたが、上級生になると随分貴様が出るものだと感心していました。ここ有明高専では学生係ということで学校行事に携わり、高専大会、ロボコン、体育祭・高専祭など、机上の仕事以外も多くこれまでとは異なる仕事でしたが良い経験になりました。

◇20年前と今について

就職した頃は時間がたくさんあったので、友達と九州内ぐらは高速も使わずドライブしたり、お金が少し貯まると旅行したりしていましたが、改めて今について書くとなると、このころは職場と家の往復がほとんどで変化のない毎日であり(体重だけは増加しています)、これを機に、これから少しは身軽に行動を起こせるよう、身体(まずは少し運動を始めて)と心(本を読む時間を増やすことあたりから)の準備を始める機会にしたいと思います。

各種技能検定合格者

平成16年度 第2回

漢字検定(2級)合格者

1 C 畑中 宏文	1 C 山田 千晶	1 A 有吉ゆかり
2-1 宮原 龍二	2-3 中村 仁美	2-5 秋富 博紀
4 I 石橋 純美	4 I 越智祐祐美	4 I 清島真理子
4 I 猿渡 都	4 I 林 志穂	4 I 山口美菜子
4 I 山村 太士	4 C 北野麻里子	4 C 田島 圭祐
4 C 宮辺 純	5 I 長塚 由紀	

平成16年度 第2回

漢字検定(準2級)合格者

1 E 横山 朝暁	1 C 田中理佳子	1 A 佐々木亜衣
2-2 中原亜沙美	2-3 須崎 鈴奈	2-3 藤田 恵
2-4 菊田さゆみ	2-4 中野 沙織	2-4 吉武 真弥

システムアドミニストレータ

4 E 秋富 裕紀

情報処理活用能力検定(J検2級)

4 E 野田 大道	4 E 西田 剛
-----------	----------

工事担任者試験(デジタル3種)

4 E 赤池 和哉	4 E 伊津野大志	4 E 上野真太郎
4 E 坂田 真愛	4 E 上土井千秋	4 E 豊福 大騎
4 E 山口 雅史	4 E 山田 将大	

基本情報技術者試験

4 E 増尾誠一朗	4 E 西田 剛
-----------	----------

ソフトウェア開発技術者試験

4 E 西田 剛

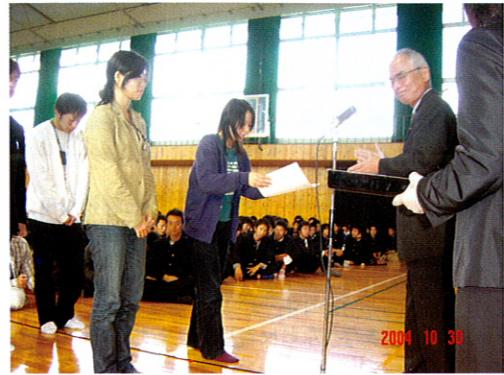
表彰

本校では、学生の創造性を発揮できる場となるべく数多く設け、優れたものは表彰しようということにしています。ここでは、その中で、「ホームページデザインコンテスト」、「文化系クラブ棟デザインコンペ」、「名札デザインコンテスト」、および「建築設計競技(外部団体主催)」について紹介します。

ホームページデザインコンテスト

荒尾ロータリークラブから本校学生に同クラブのWebページ(ホームページ)のデザイン制作依頼があり、本校でコンテスト形式にして、作品を募集しました。多数の作品の中から次の学生の作品が選ばれ全校集会で表彰されました。

- 最優秀賞(2作品)
○電子情報工学科 5年 野崎 綾
原田沙央理
長塚 由紀
○専攻科 2年 矢山 高裕
優秀賞(3作品)
○電子情報工学科 2年 二宮 啓聰
○電気工学科 4年 西田 剛
○機械工学科 5年 鶴田 弘之



有明高専文科系クラブ棟設計競技(デザインコンペ)

本校で新築が計画されている文科系クラブ棟の設計に当たり、学生による設計競技(コンペ)が行われました。建築学科および専攻科(建築系)の学生が参加し、高専祭での公開プレゼンテーションを経て、8作品の中から次の作品が全校集会で表彰されました。

- 最優秀賞 ○専攻科(建築学専攻) 2年 諏訪園未帆
優秀賞 ○専攻科(建築学専攻) 1年 古田 浩一
優秀賞 ○専攻科(建築学専攻) 1年 山本 啓輔
佳作 ○建築学科 5年 東 優子



学生用名札デザインコンテスト

本校では学生・教職員とも名札をしていますが、今回、学生用の名札を一新することになりました。そこで、そのデザインを学生から募集し、学生投票により優秀作品を選んで表彰することになり、先日投票が行われ6点の応募作品から専攻科1年の吉川君の作品が選ばれました。これまでの名札は、文字情報を並べた非常にシンプルなものでしたが、吉川君の作品は学科毎のカラーを巧に利用するとともに、学年を大きな数字で表して、学科・学年がはっきりとわかるデザインになっています。

- 最優秀賞 ○専攻科(生産情報システム工学専攻) 1年 吉川 耕平



平成16年度 建築設計競技 8年連続で団体賞受賞

(社)福岡県建築士事務所協会主催の建築設計競技で平成16年度も良い成績を収めることができました。課題は「JR遠賀川橋上駅計画」で、福岡県内の高等学校から65点、専門学校から187点の応募がありました。高等学校の部では、福岡県教育委員会賞を安田有希さん、遠賀町長賞を上杉名央さん、銀賞を神尾沙和さんと古賀絵里菜さん、銅賞を瀬崎真澄さんと松延良枝さんが獲得し、他に、佳作に5名、入選に5名が入り、3Aの16名が入賞を果しました。例年なく上位の入賞が多い結果となり、団体賞として学校努力賞が獲得できました。団体賞は平成9年度から8年連続の受賞となります。

専門学校の部でも例年よりも多い入賞となり、5Aの東優子さんが銀賞、中尾麻美さんが銅賞を獲得し、

他に佳作に1名(5A)、入選に2名(4A・5A各1名)が入りました。

(A科 松岡 高弘先生)



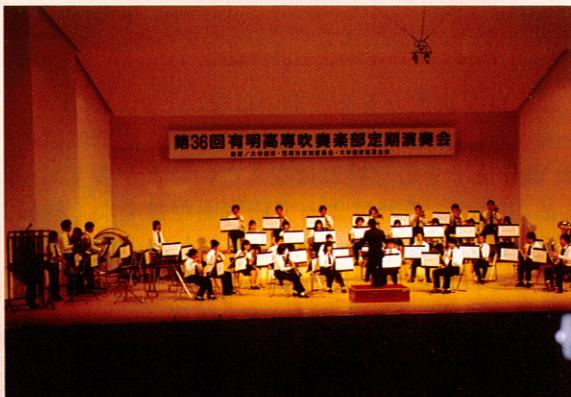
第36回 吹奏楽部 定期演奏会

定期演奏会を終えて

第36回定期演奏会実行委員長 3C 河野 敦美

1月15日(土)、大牟田文化会館にて私達は第36回定期演奏会を開催しました。今回の演奏会は先生、先輩、後輩、OB・OGの方々にとても心配をかけたものでした。10人を越える実行委員は個性的なのですが、まとまりにくく、なかなか思うように先へ進めませんでした。さらに、新たにジャズ曲を取り入れようとした試みたので戸惑いも多く、本当に部員の皆には迷惑をかけました。それでも、「全力疾走」というテーマのもとに、私たちは私たちなりに全力で走れたと思います。この演奏会を通して仲間の大切さ、1つのことを作り上げる大変さを学びました。この経験を

これから活かせるよう努めていきたいと思います。最後に、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



今回は機械工学科の田口紘一先生と物質工学科の松本和秋先生の研究室を訪ね、お話を聞きました。

聞き手：濱田 伸生 先生（G科）



機械工学科 田口紘一先生

現在の研究テーマをお聞かせ下さい

この40年近く主に金属に深い穴をあける加工について研究してきました。切りくずの排出や真直ぐにあくかどうか、工具の寿命などが問題になっています。

この研究を始められたきっかけをお聞かせ下さい

私の先生がこの研究を始められ、彼の助手として研究に従事し、そのあとを継いで研究を続けてきました。

研究で苦労されたこと、心がけていらっしゃることなど、お聞かせ下さい

どのような研究でもそう違いはないと思いますが、何を調べればよいかを考えるだけでなく、測定装置の設計、製作までをしなければならないことが多々あったこと。しかし、それによって研究面だけでなく機械装置設計能力や製作能力の向上が図れたのはよかったです。心がけていたことはいかにして正しい測定をするかということです。実際に機械で穴をあけるのですから、種々雑多な誤差が含まれることが考えられ、測定は簡単ではないのです。

今後の研究の方向をお聞かせ下さい

今年で停年退職になりますので、深穴加工について明石先生に継いでもらって、有明地域の発展につながる機械工学に関する研究のお手伝いをしていきたいと思っています。

学生へのアドバイスなどありましたら一言お願ひします

何事をするにしても現実の正しい把握が大切だと思います。他人からの情報ではなく、自分で確認することです。特に正誤に関しては「信じる」行為は危険だと私はいつも思っています。



物質工学科 松本和秋先生

現在の研究テーマをお聞かせ下さい

液体クロマトグラフィーは物質を分離・精製する方法の一つです。その際に、カラムに充填して用いる充填剤があります。その充填剤をつくることを行ってきました。

研究テーマは、“ゲルおよびイオン交換体の合成に関する研究”です。

この研究を始められたきっかけをお聞かせ下さい

大学を卒業するとき、物質の分離精製に用いられるセファデックスというゲルがスウェーデンで開発されて数年たった頃、そのような分野に近い研究をされていた研究室の教授に出会ったことがきっかけになったと思います。

研究で苦労されたこと、心がけていらっしゃることなどをお聞かせ下さい

多孔質なゲルを合成する際、いろいろな方法を用いてもなかなか得られないで諦めていましたが、だいぶたってからやっと多孔質なものを得ができるようになりました。そのとき苦労した印象がありますが、それで何をするにも忍耐強くやれば希望したことが達成されることもあるということでしょうか。

学生へのアドバイスなどありましたら一言お願ひします

山登りをよくしていますが、登山口から山頂が見えるのはまれです。たまには山頂が遠くに見えるときがあります。そんなとき、遠いなーといつも思います。しかし、一步一步歩いて行くといつかは頂上にたどり着きます。

それと同じで、根気強くやればいつか自分の望みが叶えられるかもしれません。

第1回

(株)富士ダイス 熊本工場

(熊本県玉名郡南関町関下1966)

主要製品：超精密金型

超精密部品の粉末成型用
精密品の打ち抜き用

今号から新シリーズとして、地元で活躍している本校卒業生を職場に訪ね、そのがんばっている姿を紹介するという企画がスタートした。第1回目は、南関町にある富士ダイス熊本工場を訪ねた。当日は、戸上暢啓氏（M科20期）、中村智則氏（M科21期）、境 強氏（M科23期）、野中裕美氏（M科37期）の4名が集合して、応接室でいろいろな話をしていただいた。取材：吉田正道 先生（M科）

吉田：まず、これまで貴社でどのような仕事に携つてこられたのか教えてください

戸上：粉末冶金関連の金型の設計を一貫してやってきました。また、粉を固めて焼くということに関連する材料開発や品質管理もやっていました。

中村：所属はずっと製造課で、原料の仕込から製造工程、検査、発送までの作りの一連の作業をやってきました。

境：最初は製造課でNC旋盤を担当していたのですが、その後、生産技術課のほうに移り、抜き金型の設計をやってきました。

野中：まだ、今年入社したばかりで、現在は製造現場で指導を受けながら平面研削をやっています。

吉田：今の仕事に関連して在学中にこれだけはもっと勉強しておけばよかったと必要性を感じる科目はありますか

一同：材料と材料力学です。さらに重要なのは数学の三角関数です。これをマスターしてないと仕事ができません。

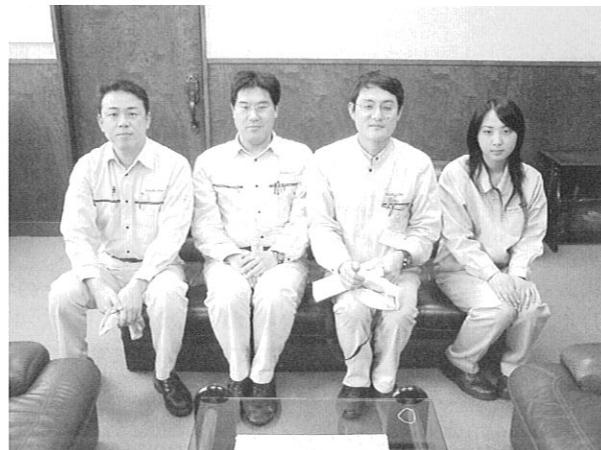
吉田：仕事に対する誇りや喜びなどをお話してください。

戸上：自分の設計した金型を納入し、客先でその金型を使用してこんなに良い製品ができましたよという報告を受けたとき、素直にうれしいです。

中村：自分の創意工夫が製品に反映されたときはうれしく思います。また、ちょっと話は外れるのですが、仕事以外の経験が仕事にすごく役に立つことがあります。

境：自分の図面を自分で製造部門まで担当し、最終にお客さんから評価までしてもらえる環境にあることが喜びです。もの作りの楽しさが味わえます。

野中：まだ、経験が浅くて実感できませんが、今やっている平面研削作業を学校でやれたら楽しかったんだろうなと思います。



左から 境、中村、戸上、野中の各氏（会社応接室にて）

吉田：仕事上でこれは困ったなということがあつたら、それをどのように解決したかというところまで含めて話してください

戸上：精密部品の粉末冶金の分野はまだ理論が確立されておらず、経験と勘の世界になります。このような経験的技術をどのように継承していくかが難しいところです。

中村：私たちの作る製品は工作機械の能力を超えたものです。数ミクロンオーダーの精度が当たり前のように要求されます。軸と穴のはめあいで、軸にマーカーで印をつけただけで今まで穴に入っていた軸が入らなくなるのです。公差のない世界で勝負しています。

吉田：皆さんのが自社の製品に対し自信を持っておられるのがわかりました。最後に、学生時代にやっておくべきこと、あるいは社会人として必要なことについてお話ししてください。

戸上：他の学科の教科にも興味を持って、できれば他学科の科目を積極的に受講してもらいたい。きっと、将来仕事に役立つと思います。

中村：自分はこれは好きだっていうもの、これは人に負けないっていうものを一つでいいから持つてもらいたいと思います。

野中：工場見学なども、会社に入ってからは絶対他社を見学できなくなるので、漫然と見学するのではなく、事前に調べて目的意識をもって見学することが大切だということが、入社してからわかりました。

一同：何よりも大切なのは丈夫な体です。会社では待ったなしの様々なプレッシャーがかかります。それを乗り越える体力と気力が絶対必要です。

吉田：今日はどうもありがとうございました
皆さんが自分の仕事に誇りと希望を持っていることがよく分かりました。今後のご健闘を祈ります。

冬季球技大会

平成16年12月15日(水)

体育局長 4C 田島 圭祐

昨年12月15日(水)、冬季球技大会が行われました。前回に続き、晴天に恵まれた今大会は、皆さんの協力のおかげでスムーズに進行することができました。

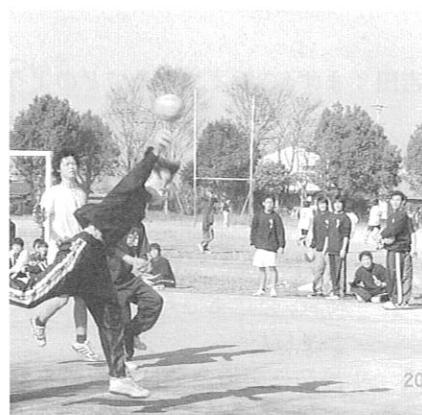
各競技で、この日のために練習してきた成果を発揮する熱戦が繰り広げられました。

成績は表のとおりです。

さて、先月の29日(土)、30日(日)に九州高専交流会に出席して来ました。そこでは、球技大会のルールや競技についても活発な話し合いが行われ、他高専の良いと思われる点をたくさん吸収してきました。これらを本校の球技大会のルールにも反映し、皆さんも盛り上がるこことできる球技大会にして行きたいと思います。来年度の球技大会、がんばりましょう。

最優秀クラス	5E	優秀クラス	3E
--------	----	-------	----

競 技	優 勝	準 優 勝	M V P
ハンドボール	専攻科	5C	吉川 耕平
サッカー	5E	4E(a)	小川 博久
バスケットボール	3E(a)	4M	西山 征利
女子バスケットボール	5C(a)	5I	山下 ゆり
卓 球	2 - 1	1M	大藪 竜太



小岱山清掃登山に参加！

平成16年11月7日(日)

11月7日(日)、本校の留学生、登山部およびボランティアグループが、荒尾ロータリークラブ主催の小岱山清掃登山に参加し、高専から5kmほど離れた小岱山に登った。

この行事は、有明高専の学生、熊本県荒尾市の有明高校の生徒や地域の住民との交流を図ることも目的としていて、同ロータリークラブ親睦家族委員会のメンバーが約10名、有明高専からは尾崎校長をはじめ教職員、学生が約30名、さらに有明高校の教員・生徒約20名が参加し、荒尾市と玉名市の境にある標高501mの小岱山に登り、清掃活動を行った。

当日は、柔らかい日差しが射す好天に恵まれ、一行約60人は、5人1組に分かれ、中腹の丸山キャンプ場から、登山道周辺のゴミを拾いながら、約3時間をかけて頂上にたどり着いた。

その後、中腹の観音寺で、ロータリークラブ関係者が用意した焼肉、おにぎり、豚汁、焼きそばなどの料

理を堪能した。留学生の一人は、「母国には雨期と乾期しかないので、紅葉に染まった木々の美しさに感動した。料理もうまかった。」とロータリークラブの温かいもてなしと同年代の高校生との交流を楽しんでいた。

(教務主事 氷室 昭三)



(観音寺にて 参加者全員集合)

新 学 生 会

学生会長 4C 鳥巣 友希



みなさんこんにちは。学生会会长に新任しました4C鳥巣です。12月に新学生会が発足しましたが、初めての活動となる冬季球技大会を無事に終え、ほっとしています。

私は『会長になりたい』と思ってから今まで、まっすぐ前へ前へと進んできましたが、未だに会長として何をしなければならないのか分かっていない気がします。しかし不安はほとんどありません。これは副会長の廣田君、鋤先君を筆頭に、役員に恵まれたお陰です。会長として私に欠けている部分をサポートしてくれているみんなには本当に感謝しています。私は有明高専が大好きです。ですから私がやるべき仕事は、先輩方が築かれてきた有明高専の伝統を、後輩に継承していくことだと思います。今は来年度のイベントについて、わくわくしながら計画を進めているところです。

ところで、普段は読む機会のない学生便覧にこんな一文が掲載されています。

『学生は入学と同時に学生全員をもって構成された学生会に入会します。学生会は選出された学生会長、学生会副会長などの役員をおき、課外活動の中心となります。』つまり、みなさん一人一人が学生会の一員だということです。計画は役員が中心となりますし、学生会全員でイベントを盛り上げましょう☆

一年後、『今年の学生会役員はよかったです』と言ってもらえるように37名が一丸となって頑張りますので、今後ともよろしくお願いします。

平成17年度 学生会役員

会長	4 C	鳥巣 友希	
副会長	4 E	廣田 信介	3 M 鋤先 秀耶
涉外	4 E	長野 友彦	3 I 大渕 喜子
	2-1	大林 由季	
会計	4 I	田中あゆみ	3 M 佐藤 剛
	3 M	相浦 啓太	
放送	4 C	宮辺 純	4 C 中村 仁美
	3 A	黒木 理恵	2-3 藤田 恵
文化局	3 A	榮 寛子	4 C 湯川明希奈
	3 M	宮本 兼次	2-4 友添 祐介
	2-5	松野 宙	
体育局	4 C	田島 圭祐	3 M 陶山 俊介
	3 I	佐々木陽光	2-4 関 勇輝
	1 M	新庄 佑規	
報道局	4 E	伊津野大志	3 I 廣松幸太郎
	3 C	荒木 美英	2-2 定 徹秀
	2-5	三宅 静香	
風紀局	4 M	山川 達矢	3 M 石橋 慶一
	3 I	辻 翔吾	2-3 市川雄太朗
	2-5	中村 浩之	
整備局	4 E	星山 浩靖	4 E 肥後 智也
	2-2	古賀 慎平	2-5 蔡本 一生



体育系 クラブリーダー研修

平成16年9月30日(木)・10月1日(金)

兼ねて、レクレーションが行われました。

新リーダーは、この2日間の一泊研修での講演や討議で得たものを、これからクラブ運営等に活かしていく欲しいと思います。（学生主事補 坂西 文俊）



(阿蘇青年の家 玄関前広場にて)

岱明寮だより

寮長あいさつ



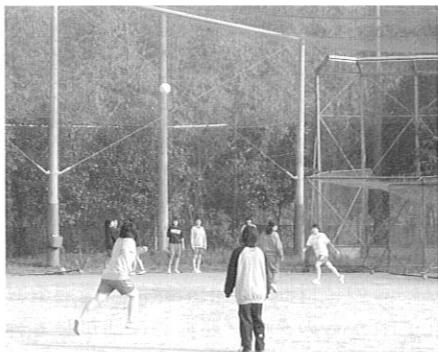
41 松永 剛幸

こんにちは、寮長の松永です。情報科から寮長がでるのは珍しいようですが、立候補が出なかったので結果的にこういう形になりました。“今までに比べ威厳がない”と後輩達にまで冷やかされている通り、歴代寮長に比べると随分とインパクトに欠けるようですが、そこは他の役員達がカバーしてくれると思っています。今年の寮生会メンバーはほとんどが3年生で構成されていますので、今までとは違った雰囲気になりそうです。今年の寮生会の目標は、「各局の連携のとれた組織にする」です。昨年までの寮生会は、局の数が細分化されていて、まとまりに欠ける点が見られました。今年は局をまとめ小型化することにより、各局への連絡を取りやすく、小回りがきくよう意識しています。親しみやすい寮長・寮生会を目指してがんばりますので、どうぞよろしくお願いします。

寮生球技大会

5E 莢屋 浩司

11月20日に寮生球技大会を行ない、男子はサッカー、女子はキックベースを実施しました。5年生は最後ということもあり、とても燃えていました。当日は天氣にも恵まれ、いい球技大会ができました。朝、準備のために早めに学校に行っていると、朝練をして学校から帰ってくる寮生がいました。学校の球技大会のようにみんな本気でした。そして試合が始まるとみんな顔がマジで、白熱した試合になりました。5年生もがんばったのですが、さすがに歳で、決勝で4年生に負けました。4年生は最後に5年生に花を持たせようとする気持ちは全くなく、本気でした。とにかく、久しぶりの寮生行事はとても楽しく良い思い出になりました。これだけ寮生の仲が良ければ何も心配せずに卒業できるな、と思える球技大会でした。



▲PK戦でも白熱

◀遠くへ飛んで行け～

寮生会役員

平成17年2月10日現在

寮長 41 松永 剛幸

副寮長 3M 鋤先 秀耶

副寮長 4M 後藤沙衣子

局名	局長	副局長	棟長	銀杏棟長	5E 本山 謙
会計	3C 南 康洋		紅葉棟長	3C 古屋 貴裕	
整美	3C 川崎 栄一	3C 的場 仁志	青葉棟長	2M 高島 英之	
委員	5E 梶原 啓治 2E 加納 廣人 4C 原 美沙子	11 古場 友規	若葉棟長	4E 江崎 圭佑	
報道	3E 高田 俊輔	3A 成富 仁史	桜棟長	4M 後藤沙衣子	
娯楽	3A 草場 紀法	2A 長澤 一誠	桜副棟長	3E 矢島 真希	
委員	3A 黒木 理恵	3A 小倉 晴菜	3C 古川 累		
指導寮生	4M 救仁郷 良	4E 江崎 圭佑			
	4A 高木 祥平				
桜棟指導寮生	4C 原 美沙子				

※男子棟長・指導寮生は17年3月まで

* * * * 留学生送別会 * * * *

高専留学生送別



今年3月卒業予定のロン君(5C)の送別会が2月23日(水)に修己館食堂で行われました。尾崎校長先生をはじめ、担任の富永先生、日本語講師の坂口先生、在校留学生代表のエミさん(4C)などから、ロン君との思い出や励ましのメッセージが、吹奏楽部からは心温まる演奏が送されました。ロン君のスピーチでは、有明高専に編入してから今日までの3年間の思い出や、優しくしていただいた方々への感謝の気持ち、将来の夢や不安などについて思いを語っていただきました。

ロン君は、卒業後日本の大大学へ進学する予定です。より一層の活躍を期待いたします。

(教務主事補 石丸 智士)



* * * * 寄生送別会 * * * *

岱明寮では5年生の卒寮を祝って、1月22日(土)に恒例の送別行事を実施しました。年明け開寮直後の寮生会との打ち合わせで、今年の送別行事も昨年と同様の形式で実施することにしていました。ところが、例年、日中に行われていた卒寮生による餅つきは、卒業研究のための時間をあまり削れない人が多いとの理由から、残念ながら今年は取り止めということになり、予餞会のみが行われました。

予餞会は夕方6時より、多くの教職員の方々に来ていただき、寮食堂で行われました。昨年と同様の二部構成でプログラムが組まれました。一部は校長先生、寮務主事のあいさつに続き、松永寮

長の送辞、卒寮生代表の苅屋君の答辞が行われました。さらに会食をしながら、ナレーション付きで卒寮生の懐かしいスライドを見て盛り上がった後、卒寮生へ記念品が送されました。二部では、若葉棟、桜棟、青葉棟の5グループによる寸劇と卒寮生から在寮生へのスピーチが交互に行われました。寸劇で盛り上がったり、スピーチでしんみりとしたり、思い出に残る楽しい一時を過ごしました。

5年生の皆さん、卒寮おめでとうございます。岱明寮での生活は皆さんの人生の大きな財産となることでしょう。今後の健康と御活躍を祈念します。

(寮務主事 中島洋典)





専攻科ポスターセッション

平成17年1月13日(木)・14日(金)

今年で3回目となった専攻科特別研究発表会が、1月13日(木)・14日(金)に本校専攻科棟1階共用実験研究室で開催された。本発表会は初回より研究内容を広く地域に公開するためにポスター展示形式で行われており、各専攻の2年生は各自工夫を凝らして製作したポスターの前で校外からの来訪者の方々や本校教職員・学生に対して熱心に説明していた。



編集後記

花の色合いは既存の色で表現し難いものが多い。日本を象徴する桜の花は何色？ ピンク？ うすべに色？ いずれもしっくりこない。結局、ぴったりした色が見当たらず、桜色という安直な表現に落ち着く。しかし、梅の花は迷うことなく紅と白である。しかも紅白は色の代表選手である。何かしら力強さを感じる。桜の花は、風に吹かれれば風に舞い、雨に打たれればはかなく散る。梅の花は、厳しい風雪をもろともせず凛として花を保つ。できれば、梅のように生きたいものだ。

有明高専だより 第115号

平成17年3月4日発行

編集：有明高専広報委員会

発行：有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861 (学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>